

報告書

A01-3 骨格筋の発達・維持・萎縮における負荷依存性の分子基盤の理解

研究代表者： 瀬原 淳子（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所・教授）

招聘先 : 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 再生免疫学分野

招聘期間 : 2019年 7月28日～ 8月19日

招聘研究者： Dr. Yosuke Hiramuki (University of Nevada, Reno)

平向博士は、瀬原研究室で学位を取得した若手研究者であり、当時から筋疾患研究に意欲的であり、シアトルの Fred Hutchinson Cancer Research Center の Stephan Tapscott 博士のもとへ留学した。平向博士は骨格筋幹細胞の培養が得意であったことから、幹細胞の単離や培養、ライブイメージングなどについて共同研究を行ってきた。その成果は、Hori *et al.*, *FASEB J*, 2019:

<https://www.fasebj.org/doi/full/10.1096/fj.201802479R> に公表している。彼は現在、顔面肩甲骨型筋ジストロフィーの発症や病態解明に挑戦しており、興味深い結果を得ている (Hiramuki and Tapscott, *Skeletal Muscle*, 2018; <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC6090946/>)。

そこで今回は国際支援のサポートを得て、彼を京都大学に招聘し、骨格筋幹細胞に関するディスカッションを行うとともに、顔面肩甲骨型筋ジストロフィーに関する研究成果を中心に講演をお願いした。

この日は、同時にミネソタ大学幹細胞センター准教授で、筋幹細胞と血管との相互作用について優れた研究成果を発表している朝倉淳博士もお招きし、同様に講演していただいた。朝倉博士は20数年前瀬原が研究指導して以来の付き合いで、平向博士にとっては Tapscott 研の先輩でもあることなどから、そのあとの研究交流会は大いに盛り上がった。



平向博士は、帰国の機会を利用して、日本筋学会にも出席してその研究成果を発表、さらに、日本の筋疾患研究の中心の一つである国立精神・神経センター神経研究所を訪問した。

写真は、右から朝倉、平向、西邨（留学していたパスツール研から帰国）、筆者、左端が宇宙における筋萎縮研究に取り組んでいる佐藤。